

日野市

男女平等についての市民アンケート

調査結果報告書

日野市は、一人ひとりが男女平等のもとに互いに個性と能力を尊重し、豊かに暮らせる社会を目指して、平成10年に「男女共同参画都市宣言」を行い、平成14年に施行した「日野市男女平等基本条例」に基づき、平成28年度から「第3次男女平等行動計画」を推進しております。この度次期計画「第4次男女平等行動計画」を策定するにあたり、市民の意見を男女平等施策に反映するための基礎資料として、「日野市男女平等についての市民意識アンケート調査」を行いました。

令和元年10月

【調査の概要】

- 調査対象：日野市在住の18歳から89歳までの男女から1,500名を無作為抽出
- 調査方法：郵送によるアンケート調査（はがきによる督促1回）
- 調査期間：令和元年6月28日（金）～7月22日（月）

【回収状況】

発送数	有効回収数	回収率
1,500件	560件	37.3%

【概要版の見方】

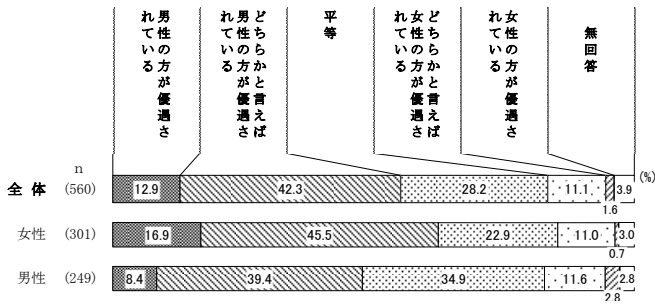
- 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- 百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。
- 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。
- 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。

【結果の概要】

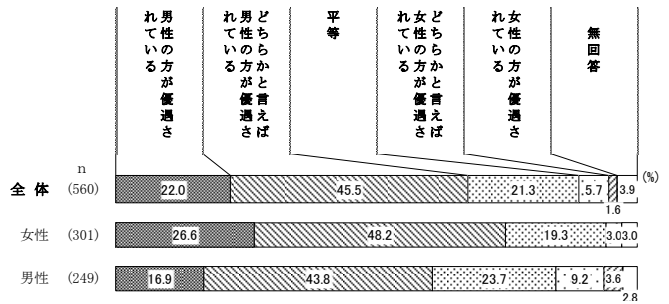
男女平等の意識

男女の地位が平等だと感じている割合は学校教育で7割強、地域社会（自治会・PTA など）の場では4割となつています。しかし、それ以外の分野では男性の方が優遇されていると感じている割合が高く、特に女性の方がそう感じている割合が高くなつています。

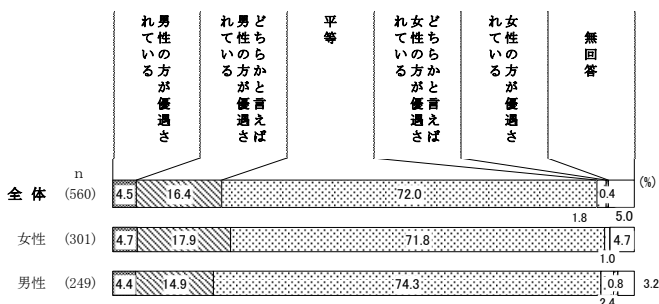
①家庭生活



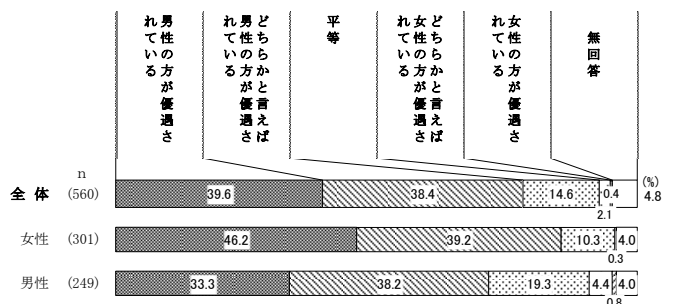
②職場



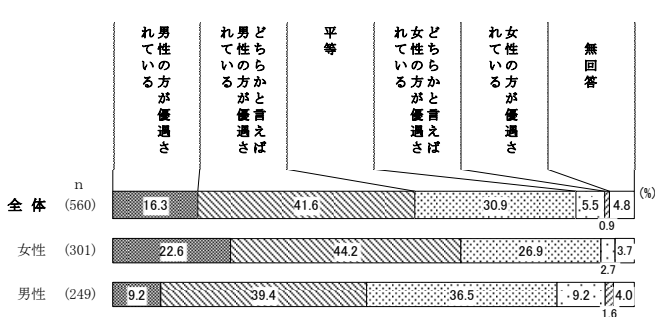
③学校教育



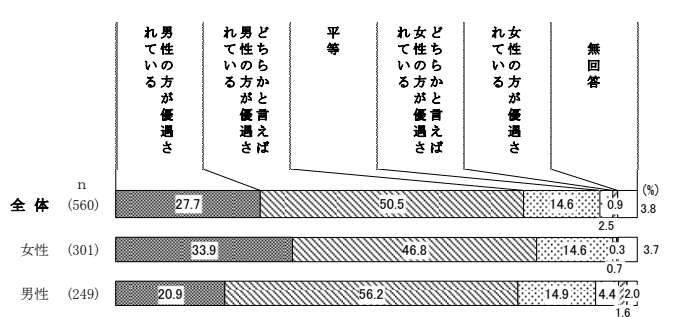
④政治



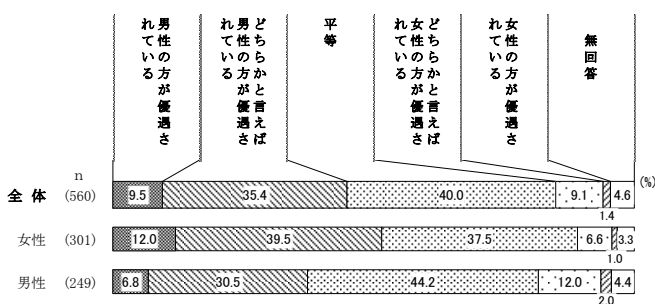
⑤法律や制度上



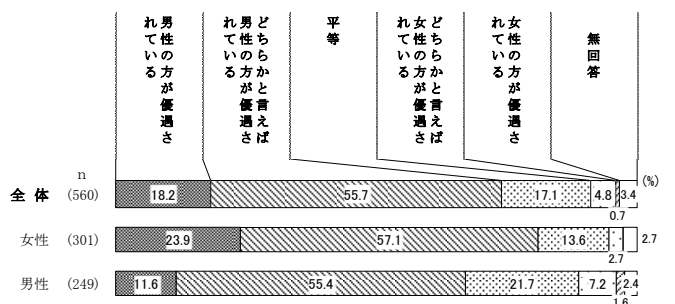
⑥社会通念・習慣・しきたりなど



⑦地域社会（自治会・PTA など）の場



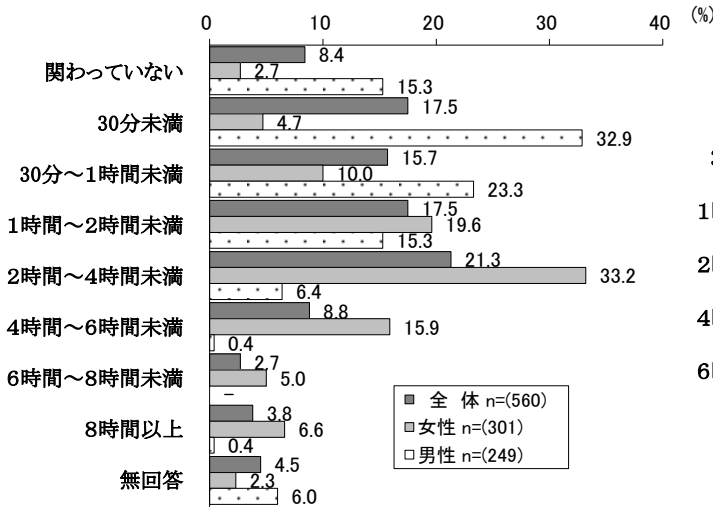
⑧社会全体



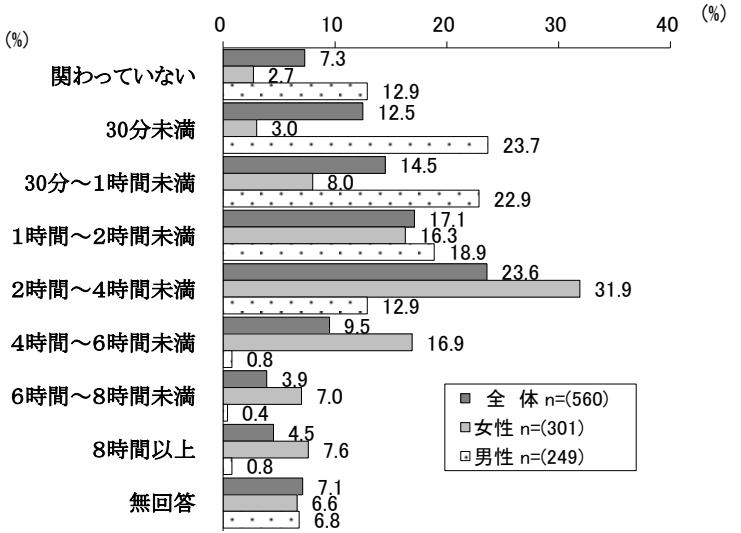
家事の従事時間

家事の従事時間を見ると、女性は平日、休日ともに「2時間～4時間未満」の割合が最も高くなっています。一方、男性は「30分未満」、「30～1時間未満」の割合が高くなっています。

【平日】

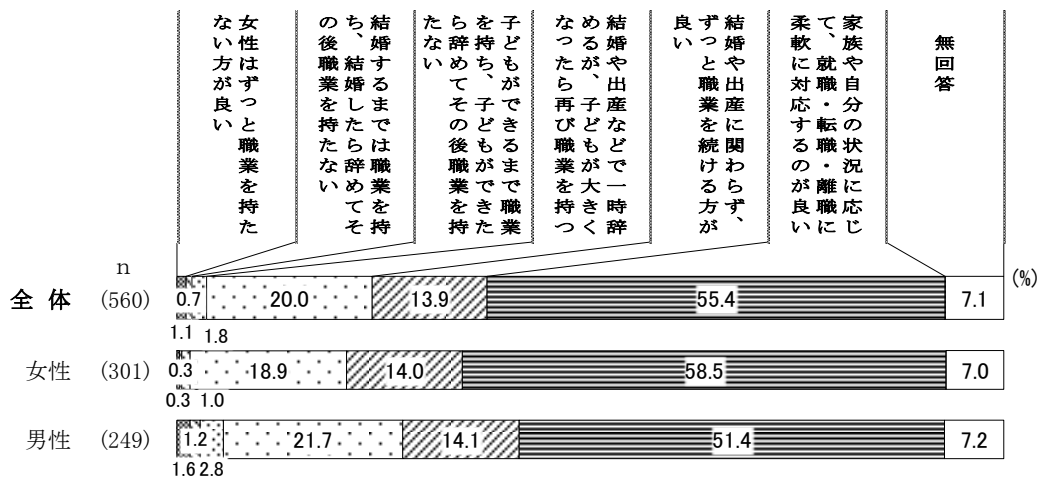


【休日】



女性が職業をもつことについての考え

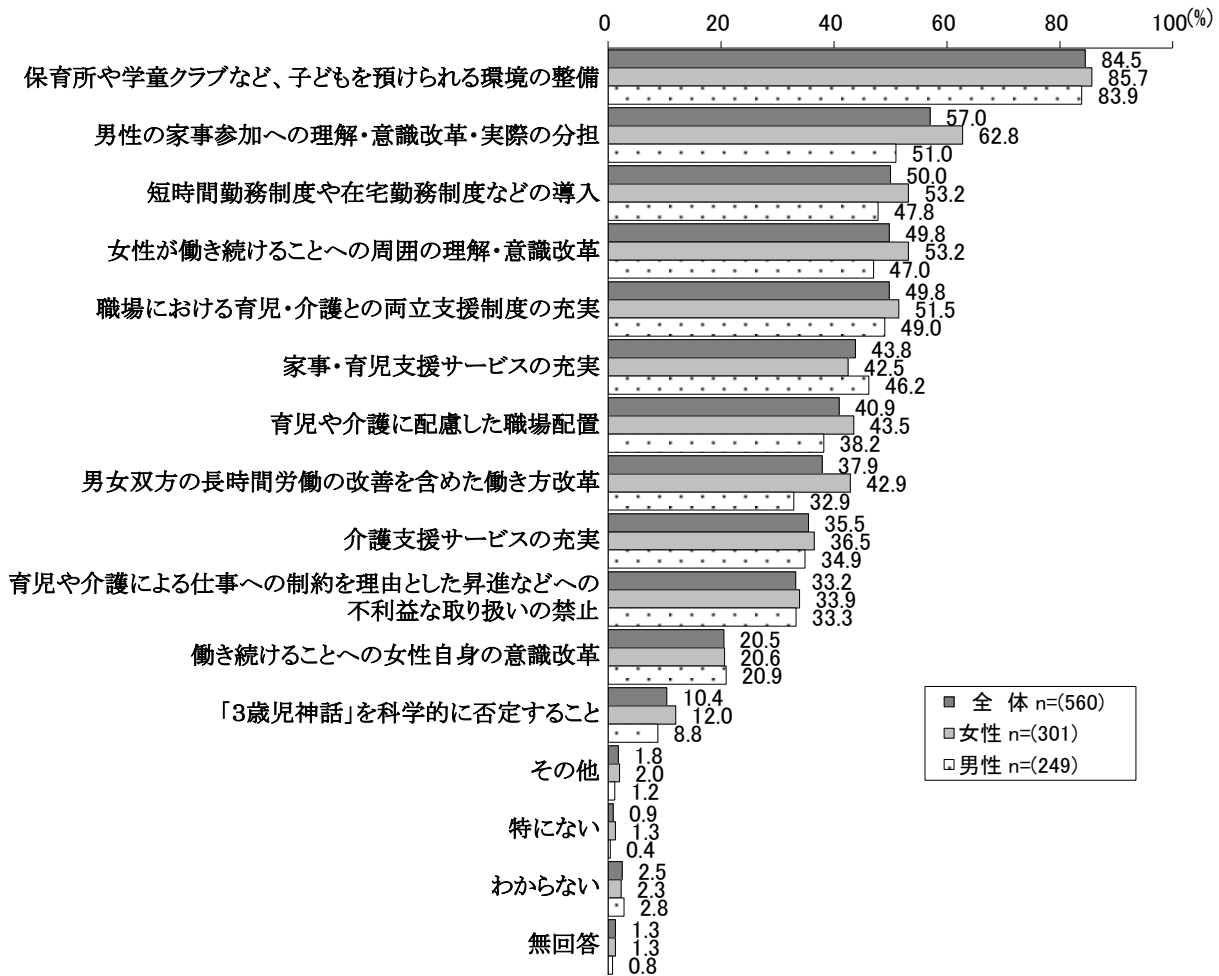
女性が職業をもつことについての考えは、「家族や自分の状況に応じて、就職・転職・離職に柔軟に対応するのが良い」が55.4%で最も高く、次いで「結婚や出産などで一時辞めるが、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」が20.0%、「結婚や出産に関わらず、ずっと職業を続ける方が良い」が13.9%となっています。男女別で見ると、女性において「家族や自分の状況に応じて、就職・転職・離職に柔軟に対応するのが良い」が男性と比べて7.1ポイント高くなっています。



女性が出産しても同じ職場で働き続けるために必要なこと

女性が出産しても同じ職場で働き続けるために必要なことは、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が84.5%で最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革・実際の分担」が57.0%、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が50.0%となっています。

男女別で見ると、女性において「男性の家事参加への理解・意識改革・実際の分担」が11.8ポイント、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」が10.0ポイント、男性と比べて高くなっています。

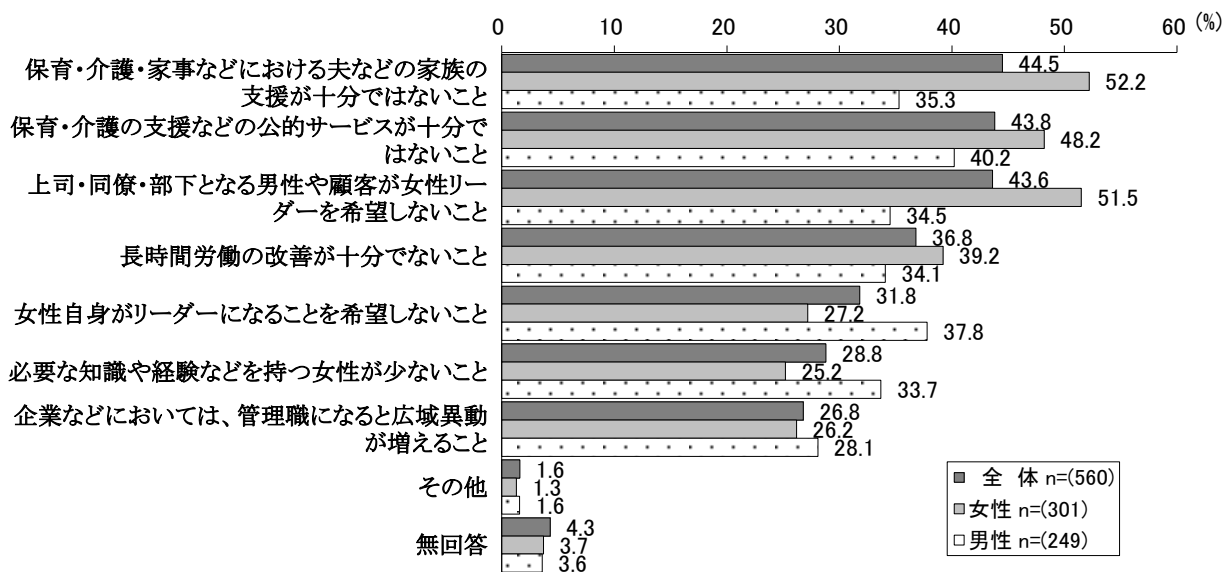


女性リーダーを増やすときに障害になるもの

女性リーダーを増やすときに障害になるものは、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が44.5%で最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が43.8%、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が43.6%となっています。

男女別で見ると、女性において「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が17ポイント、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が16.9ポイント、男性と比べて高くなっています。

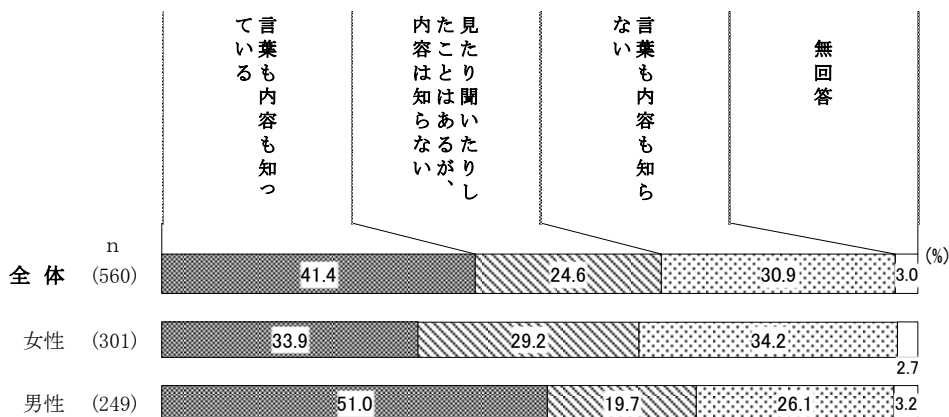
一方で、男性において「女性がリーダーになることを希望しないこと」が10.6ポイント、「必要な知識や経験を持つ女性が少ないこと」が8.5ポイント、女性と比べて高くなっています。



「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は、「言葉も内容も知っている」が41.4%で最も高く、「言葉も内容も知らない」が30.9%、「見たり聞いたりしたことはあるが、内容は知らない」が24.6%となっています。

男女別で見ると、男性の方が「言葉も内容も知っている」の割合が高くなっています。

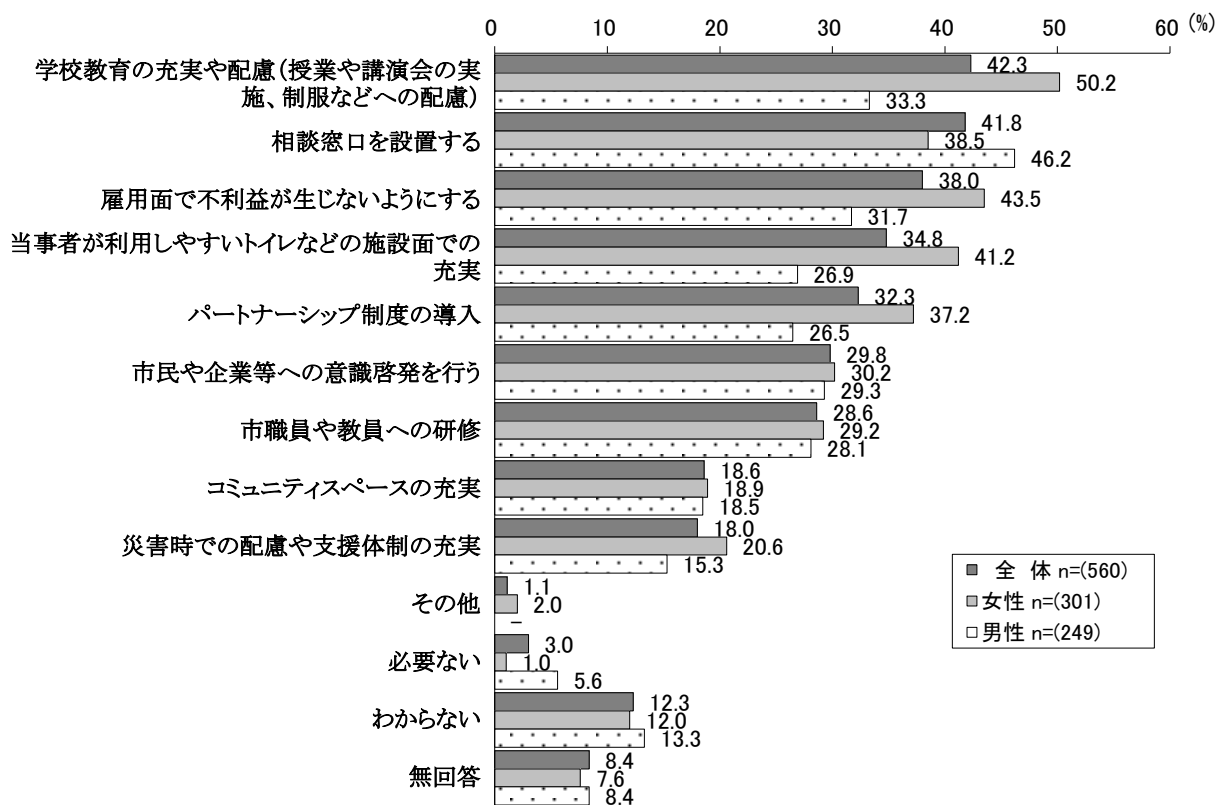


性的マイノリティに対して必要な自治体の取り組み

性的マイノリティに対して必要な自治体の取り組みは、「学校教育の充実や配慮（授業や講演会の実施、制服などへの配慮）」が42.3%で最も高く、「相談窓口を設置する」が41.8%、「雇用面で不利益が生じないようにする」が38.0%となっています。

男女別で見ると、女性において「学校教育の充実や配慮（授業や講演会の実施、制服などへの配慮）」が16.9ポイント、「当事者が利用しやすいトイレなどの施設面での充実」が14.3ポイント、「雇用面で不利益が生じないようにする」が11.8ポイント、男性と比べて高くなっています。

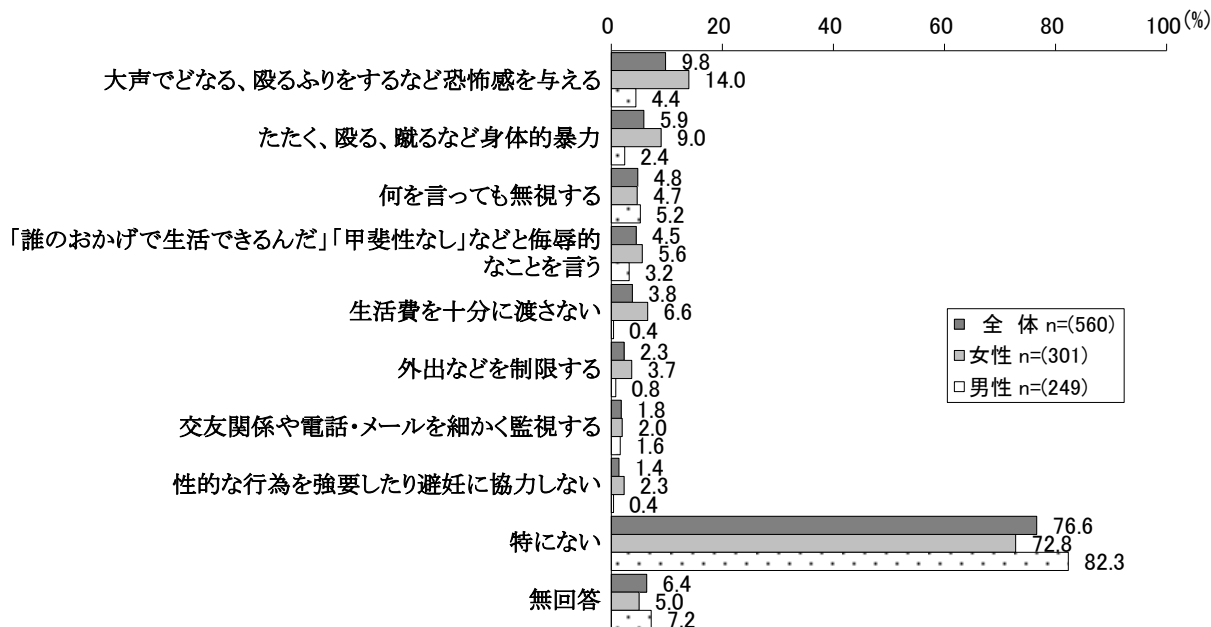
一方で、男性において「相談窓口を設置する」が女性と比べて7.7ポイント高くなっています。



DV（配偶者や交際相手からの暴力）を受けた経験

DV（ドメスティックバイオレンス：配偶者や交際相手からの暴力）を受けた経験は、「特にない」が76.6%で最も高く、「大声でどなる、殴るふりをするなど恐怖感を与える」が9.8%、「たたく、殴る、蹴るなど身体的暴力」が5.9%となっています。

男女別で見ると、女性において「大声でどなる、殴るふりをするなど恐怖感を与える」が男性と比べて9.6ポイント高くなっています。

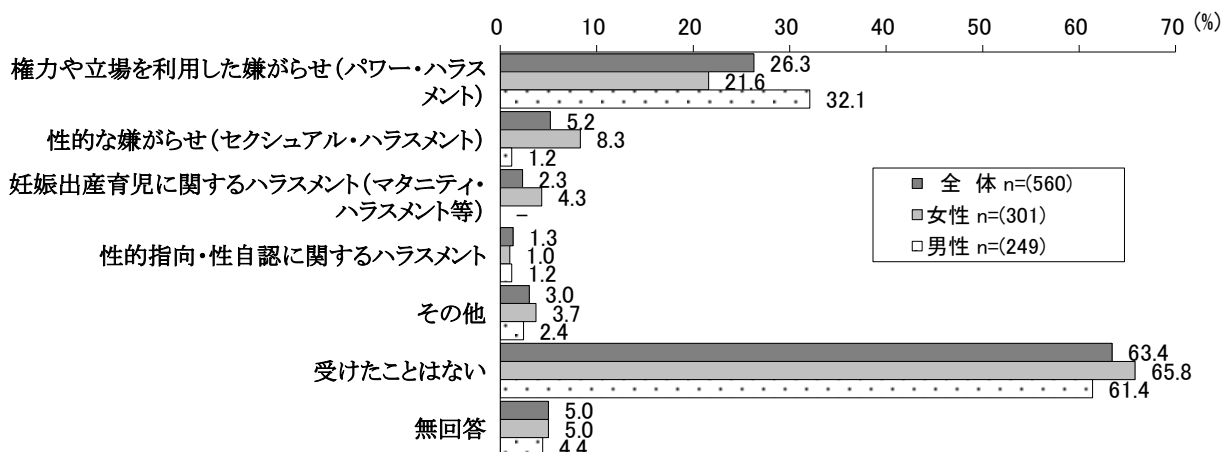


ハラスメントを受けた経験

ハラスメントを受けた経験は、「受けたことはない」が63.4%で最も高く、「権力や立場を利用した嫌がらせ（パワー・ハラスメント）」が26.3%、「性的な嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）」が5.2%となっています。

男女別で見ると、女性において「性的な嫌がらせ(セクシュアル・ハラスメント)」が男性と比べて7.1ポイント高くなっています。

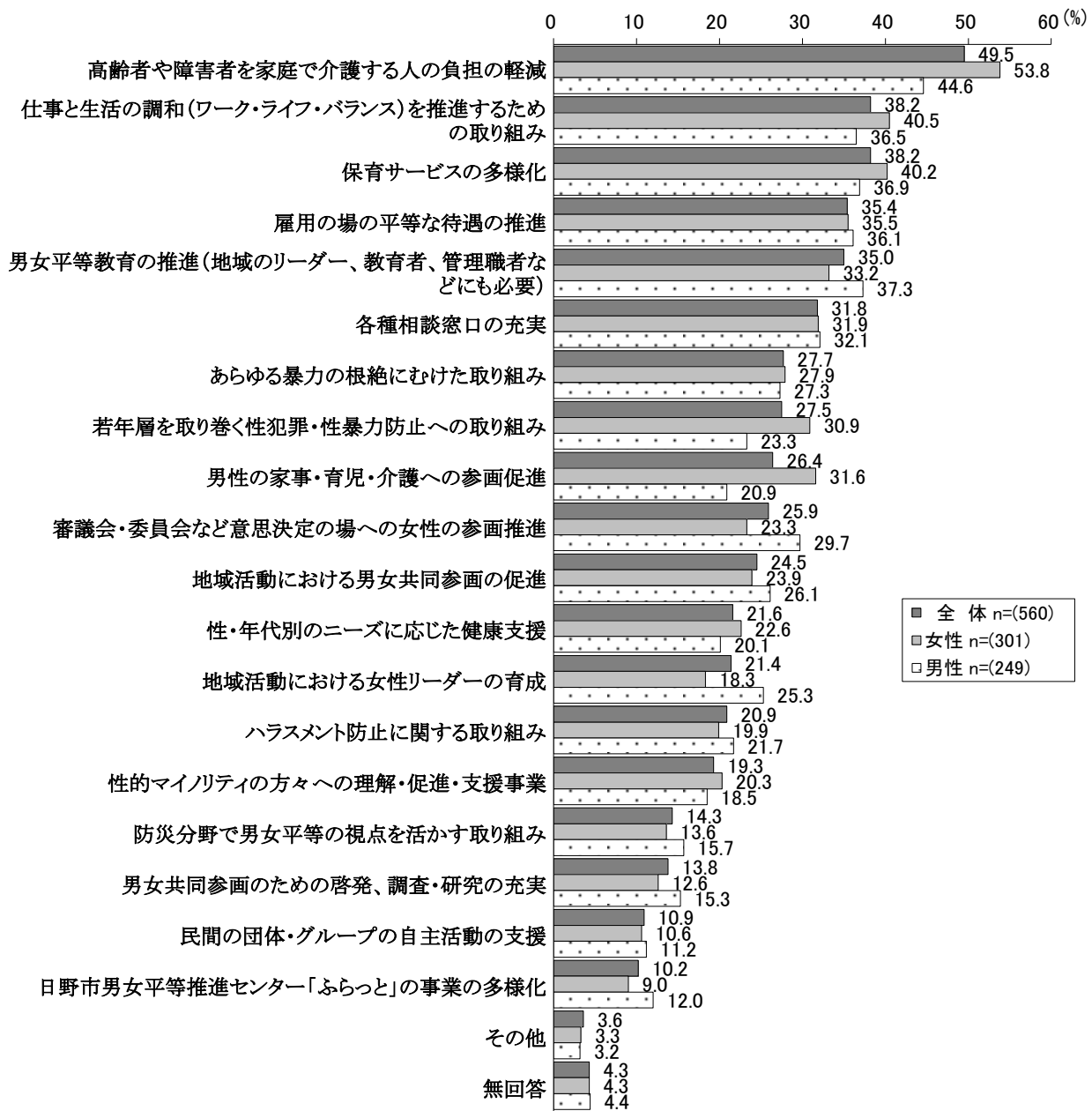
一方で、男性において「権力や立場を利用した嫌がらせ（パワー・ハラスメント）」が女性と比べて10.5ポイント高くなっています。



日野市が特に力を入れていくべき男女平等に向けた取り組み

日野市が特に力を入れていくべき男女平等に向けた取り組みは、「高齢者や障害者を家庭で介護する人の負担の軽減」が49.5%で最も高く、次いで「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための取り組み」、 「保育サービスの多様化」が38.2%、「雇用の場の平等な待遇の推進」が35.4%となっています。

男女別で見ると、女性において「男性の家事・育児・介護への参画促進」が10.7ポイント、「高齢者や障害者を家庭で介護する人の負担の軽減」が9.2ポイント、男性と比べて高くなっています。一方で、男性において「地域活動における女性リーダーの育成」が女性と比べて7.0ポイント高くなっています。



日野市男女平等についての市民アンケート調査結果報告書—概要版—
令和元年10月

発行・編集：日野市 企画部 男女平等課
〒191-0062 日野市多摩平2-9 多摩平の森ふれあい館2階
TEL 042-584-2733 FAX 042-584-2748